

1. 別名

塩化カルボニル

2. 性質

気体 無色 青草臭

- 原子量； 98.92
- 比重； 1.392
- 蒸気密度； 3.41
- 沸点； 8℃
- 溶解性； 微
- 許容濃度； 日本0.1ppm
米国0.02ppm (STEL C)

3. 危険性・有害性

人体への影響； 猛毒である。吸入による主要な作用は、呼吸中枢の刺激で、肺胞まで侵し、数時間後に急激な症状が現れる。

濃度と作用

濃度 [ppm]	作用
0.5	経験者なら臭気を感じる。
1	長期ばく露に耐えうる上限。
2	臭気はあるが、目や喉の刺激が弱いので不快感はないに致死量を吸入する危険がある。
3~4	目・のどに刺激を感じる
5	数分内でせきが出始め1時間ばく露で危険となる。
20	1~2分で危険な肺障害を起こす
50以上	30分以下で死亡

4. 他の分析方法

原子吸光光度法 (ニトロベンジルピリジン法)
[NIOSH]

5. 用途及び発生場所

染料および染料中間体の原料、イソシアネートの製造、ポリウレタン製品の処理剤、医薬品の製造、可塑剤およびポリカーボネート樹脂の原料

6. 関係法令

安衛法 (リスクアセスメントを実施すべき危険有害物)

安衛令 (名称等表示、通知すべき危険有害物)

特化則 (第3種)

化管法、労働基準法 (疾病化学物質)

毒劇法 (毒物) 大気汚染防止法 (特定物質)

高圧ガス保安法 (液化ガス)

化学兵器禁止法 (第2種指定物質・毒芸物質)

船舶安全法 (高圧ガス)

航空法 (輸送禁止)

輸送上の注意 (国連番号1076, クラス2.3, 副次危険8)

7. 検知管の適用

